資料1

札幌新まちづくり計画市民会議　文化・人づくり分科会第2回会議（H15.12.25）における議論の整理（キーワード）

（※このシートの内容は，各委員の発言を整理・要約したものであり，市民会議分科会全体としての意見ではありません）

現状・課題の認識

＜課題1＞ 子孫のために100年後を考えたまちづくりに取り組む！

- まちの中の森再生、植樹が必要
- まちの中にかつてあった河川、水辺が蓋をされている
- ｺﾝｸﾘｰﾄ、ｱｽﾌｧﾙﾄで不要な部分まで覆われている
- 電線の地中化、広告・看板の規制が必要
- 安全と環境のため自動車の規制が必要
- まちなみや山の景観も札幌の文化として大切

＜課題2＞ スポーツ活動と地域の生活・文化・自然との連携を深める！

- 自然と接するツールとしてスポーツを積極的に活用
- 自然との接し方を体験する教育プログラムが必要
- 地域スポーツを支える人材や組織の連携が弱い
- 子どもたちの生活の中にスポーツを定着させる
- 部活の機能低下を地域が担う仕組みが必要
- 地域スポーツクラブを支える人材の確保が課題

＜課題3＞ 小さな文化活動・表現活動の場をもっと広げる！

- 公共施設の利用時間（夜9時まで）の延長が必要
- 小さな民間の施設は興行場許可が取れない
- 用途制限・興行場許可の運用を弾力化すべき
- 不登校の子どもたちには音楽等の表現活動が大切
- 子どもたちの表現活動の場を維持するのは大変
- 小さな表現活動の場を支える取り組みが必要

取り組みの方向

＜方向1＞ 先住民族の英知をまちづくりに生かす！

- 自然との関わり方、社会的規範のあり方を見直す
- アイヌ民族の自然と共生する哲学と知恵を学ぶ
- 子供たちに先住民族の英知や価値観を伝える
- アイヌ語地名の復活、日本語との並記
- アイヌ民族の伝統文化、生活文化の普及啓発
- 学校教育の場でアイヌ文化の総合的学習を実施

＜方向2＞ 札幌独自の教育を展開する！

- 実験的な教育などユニークな教育も実践してみる
- 学校と地域の連携による教育プログラムを展開
- 演劇を子どもたちの教育に生かす取り組み

＜方向3＞ 市民が主体の文化活動を育てる！

- 市民がつくり上げる、参加する、楽しむ文化の育成
- 誰でもオープンに参加できる文化活動を広げる
- 住民主体のコミュニティ・アートを育てる

＜方向4＞ 活動団体のネットワークを広げる！

- 様々な地域活動団体を横につなぐ取り組み
- 地域活動団体の情報を広く知らせる
- 交流会、メールニュース、HP などを展開

＜方向5＞ 小さな文化活動を支える仕組みをつくる！

- 公共施設を文化活動の場として有効活用する
- 公共施設をNPO が管理運営する仕組みづくり
- 市民・民間の主体的活動を支援する施策を

キーワード

- 自然と共生する文化を育てる取り組み
- 先住民族の英知に学ぶ取り組み
- 文化やスポーツを教育に生かす取り組み
- 地域の人材や組織をつなぐ取り組み
- 小さな文化活動を支援する取り組み